

西脇市保育協会との課題懇談会報告書

開催日時 2022年10月18日 13:30～15:10

開催場所 西脇市役所 委員会室

出席者 <西脇市保育協会>

伊達 恵一（西脇こども園長）、岡本 悟（比延こども園長）、
藤尾 茂雄（どれみこども園長）、垣内 宏康（日野こども園長）、
篠原 昌明（かすがこども園長）、松本 浩（つまこども園副園長）、
仲田 保弘（芳田こども園長）、荻野 隆之（黒田庄こども園副園長）

<文教民生常任委員会>

東野敏弘委員長、高瀬 洋副委員長、
林 晴信委員、村岡栄紀委員、吉井敏恭委員、
高瀬弘行委員、藤原哲也委員、藤原秀樹委員

1 本年8月に提出された要望書の説明

(1) 持続可能な社会の創り手の育成を目指して

① 安全・安心な保育の継続にむけて

- ・ ワクチン接種、感染症対策を支えていただきたい。
- ・ こども園が、社会インフラを守る組織であることがここ数年認識された。ワクチン接種は3回目に比べ、4回目は順調に進んだ。（3回目は、保育士であっても年齢で対象となっていなかったが、4回目は対象になっている。）

② 子どもたちの最善の利益を考慮した教育環境づくり

- ・ タブレットが100%素晴らしいとは思っていないが、タブレットの活用も考えていいのではないかと考えている。まずは、子ども達のこころの安定が最優先である。

(2) 人口減少地域における保育施設への振興対策等の実施

- ・ 西脇区も人口減少地域。市内では重春地区、野村地区は人口が増えているが、それも将来は頭打ちではないかと考えている。そういった中で、我々がどういった動きをすれば良いのか等も一緒に考えていきたい。

(3) 保育人材の確保・定着について

- ・ 隣の自治体では、5万円程、西脇市より給料が高いという声も聞くが、給料競争にはしたくない。そこら辺の悩みも一緒に考えて欲しい。
- ・ 現状は保育士不足だが、将来、子どもの数も減ってくるのだから緩和されるという声もあるが、保育士を志す人も減少しており、問題に思っている。
- ・ 新卒ばかりでなく、現場の保育士にも手厚い給料を出したいが、そうもなかなかできない。こういったことにも手厚い補助をお願いしたい。

2 意見交換

(こども園)

- ・ 昨年度末で7人が退職したが、2人は他業種に転職。4人は他市保育園（明石、西宮、加西等）へ移った。結果的に残ったのは1人だけである。大阪からの保育士に家賃の半分補助を行いたいと思っている。

(議員)

- ・ 加東市は毎月2万円、令和4年度から3年間で72万円、他市からの採用は5万円の上積みとなっており、給料面で手厚くなっている。

(こども園)

- ・ 特殊な事例かもしれないが、常勤的非常勤で本年5月から採用したが、「この給料ではやっていけない。」と言われた。最終的には3ヶ月で退職された。いい人材であったが、他の職員とのバランスもあり、残念であった。

(議員)

- ・ 市内のこども園の給料水準は一律と考えていいのか。

(こども園)

- ・ 市内の新卒は変わらない。統一に向けて見直し中である。

(議員)

- ・ 近隣と西脇、あるいは県下の都市部との比較は？

(こども園)

- ・ 法人によってばらばら、三木市は統一されているが、他の詳細はわからない。
- ・ 家賃補助など手当的なものもあるので、印象でないかと思う。
- ・ 街は、宣伝合戦である。駅の広告等ひどい状態
- ・ 神戸市においても人材不足である。取り合いをしているという感じである。
- ・ 公立の園は、まだ応募が多い印象である。

(議員)

- ・ 付帯的な特典と年収でインパクトが異なるのか。

(こども園)

- ・ 就職フェアなどは市と一緒に、安心感があり、たくさん来られる。
- ・ 印象は大きいと思う。
- ・ 加西市では、公立を受けてから私立へ、安定を求められている。給与は243,000円
- ・ 就職フェアはありがたい。

(議員)

- ・ サイトを見ると加西市には給料32万円のところもある。西脇市は19.5~20万円。どちらを選ぶか。

(こども園)

- ・ ボーナスがないからそうなるのではないか。そこは、民間と思われる。

(こども園)

- ・ 今年も1人短大卒が就職してくれた。親と同居である。
- ・ 園で免許なしで採用、園で免許を取らせる人が2人いる。良い関係が築ける。
- ・ 子育て終了後に保育士として採用したケースもある。定着も期待でき、職員の年齢バランスも良くなる。

- ・ 勤務形態は、正規、常勤的非常勤（1年契約）、パートの3種類がある。
- ・ 常勤的非常勤をいかに定着させるかがポイント。3年で正規採用としている。
- ・ 正規が増えると支出は増えるが、辞められるリスクは小さい。保育内容を伴うので、きっちりやっていたい。
- ・ きっちりした学習をして資質も備わった人が、長年、保育に携わるというシステムづくりを進めないといけない。このシステムづくりに市も力を入れて欲しい。

(議員)

- ・ タブレットの購入や支援員の要望だが、具体的には？

(こども園)

- ・ まだ具体的なイメージはない。使い方を含めて、子ども達や園も一緒に勉強していきたい。
- ・ タブレットを使いながら、どう生かすかなどと平行して、何ができるかの検討を行いたい。まだ手探りの状況である。
- ・ こども園は遊びを通しての子どもの発達を促していく場であるので、小学校の学習と同様には考えていない。(タブレットに関して)

(議員)

- ・ 保育教諭の負担になるのではないかと？保育教諭が1台ずつ持って、徐々に進めていくのはどうか？

(こども園)

- ・ デジタル写真を撮って、観察を行っている。これでは、印刷などインク費用も発生する。
- ・ これを大画面で、徐々に活用できればいいと思う。
- ・ つまこども園では、小学校より一回り大きな大型テレビを入れた。
- ・ 最初は職員が使って慣れた上で徐々に園児にも広めていく方法でもいいと思う。
- ・ タブレットに付随したものを揃えるのも費用がかかるので、そういった所で支援が欲しい。

(議員)

- ・ 常勤職員から正規職員に引き上げる制度を持っているのは、芳田こども園だけか？
- ・ ユニクロでも、このような取組を行っている。

(こども園)

- ・ 家庭、子育て、介護と仕事を両立できるようにと、職員に話している。
- ・ 新卒で採用し、バリバリ働けるように頑張ってもらっている。こどもから信頼される保育士を目指しているので、保育士の定着率はよい。
- ・ 常勤的非常勤と非常勤の勤務を本人が選択できるようにしている。また、常勤的非常勤から常勤への復帰もできるようにしている。(職員の介護、子育て)
- ・ 世代により勤務時間等の希望が異なるので、世代間が途切れないバランスを配慮した採用を目指している。
- ・ 5年勤務で正規職員へ昇格する制度は、拘束期間が長いので希望者は多くない。

(議員)

- ・ 小中学校は職員の間関係ということで、転勤もあった。園同士の交換(異動)などは考えられるのか？

(こども園)

- ・ ほぼない。園長への相談もあまりない。

- ・ 2人相談を受けたが、園と園の関係もあるので難しい。
- ・ 本来ならば人事交流も含めるのが理想だと思う。ゆくゆくは、給料面等の待遇も含めて園の間で検討したい。

(議員)

- ・ 少子化の中で人事交流が可能であれば、職員の勤労意欲の向上にいいのではないかと考えて質問した。

(こども園)

- ・ 「人事交流の件、将来はありえるか？」と職員会議で話したら職員に凄く恐れられた。長年勤めた職場や地元の職場で働きたいなど、人事交流については職員には抵抗があるようだ。

(議員)

- ・ 将来、人事交流などを行うとしたら、地区が簡単か？オーナー園の方が簡単か？

(こども園)

- ・ 地区立は地域との関係や財産の問題等で困難だと思う。オーナーの方は（オーナーの裁量で決められるので）やりやすいと思う。

(議員)

- ・ 西脇市内の小中学校は、統廃合に向けて動いている。将来の少子化に向けて、こども園はどう検討されているか。各園の考えを聞かせてください。

(こども園 各園)

西脇

- ・ （西脇こども園は）児童発達支援を始めた。そこに力を入れている。長期休暇期間に小学校の学童保育を一部受け入れている。（将来的には、市の委託を受けてそれぞれの園でもできるようになればいいと思う）
- ・ 市の小中学校の統廃合方針は、西と東に核を持って行こうとしている。
- ・ 学校がなくなれば、「村じまいになるのではないか」と考えている。
- ・ 小中学校やこども園は、村地域にとって必要な資源である。こども園は、災害時、若い女性などの避難場所としても活用もできる。ミルク、おしめ、生理用品など施設の備品は園なら心配なくお貸しできる。ただし、人的な対応の問題はある。

芳田

- ・ 少子化の傾向が、芳田地区では特に深刻である。
- ・ 芳田地区内から来ている子どもは3分の1、他地区から来ている子どもが圧倒的に多い。市内全域から来られている。広域の手法を考えないとこども園は存続できない。
- ・ 芳田を選ぶメリットがないと選んでもらえない。芳田こども園の親の層の関心度やものの見方等、レベルが高い。専門的な知識のある方の協力を得て、保護者に対する啓発にも力を入れている。
- ・ 言語指導、専門集団との連携、外国の人との交流、天神池プールのスイミングで成果を上げていると思う。特色を出さないと保護者はこちらを向いてくれない。このような積み上げしかないと考えている。

日野

- ・ 10年前は 200人、職員40人、とにかく忙しかった。
- ・ 職員みんなで両立できるようにしたいと考え、たとえ10分でも休憩できる職場環境づくりを行ってきた。現在の園児は 147人（定員 165人）、職員数38人であるが、忙しい状況である。

- ・ 支援が必要な子が増えてきているが、個々の対応は大事にしていきたい。お母さん方からのお礼も沢山もらっている。
- ・ 園舎の改築時にバリアフリーにしたので、2室を1室にすることや1室を2室にすることなど、園児数に応じた対応が柔軟にできる。
- ・ 園児 147人中2人だけが加東市、残り半分が日野地区の子どもである。市内で園児を取り合っても仕方ないので、こども園、行政、議会で一緒に将来の姿を考えていければありがたい。
- ・ 経営努力も必要だが、地元西脇の子を大事に育てたい。

かすが

- ・ かすがこども園は、市内の中心部の園であり、5年前に比べると園児数が増え、先生の確保が大変だった。日野こども園のようにたくさんの保育士を確保していない。
- ・ 先生方に余裕がなく超過勤務が多かったが、園児が減ってちょっと余裕ができてきた。
- ・ 特別支援の子どもを預かり、どう育てるかを検討している。
- ・ また、最近は外国籍の子どもをどう保育教育していくのかも大きな課題。先生方で共有してやっていきたい。言葉の問題等があり、外国籍の子どもに対応できる先生はいない。このような子どもたちに日頃から関わっている人を探したい。ポケトークだけでは困難で、定期的に月1～2回専門家の方に来てもらっている。
- ・ バスがないので、送迎時に対面での保護者とのコミュニケーションを大切にしている。地道に細かく伝えていきたい。

*なお、通園バスがないのは、津万、西脇、かすかの3園。

黒田庄

- ・ 副園長として、本年4月から黒田庄こども園に勤務している。現在、年間6回の園長研修を受けている。
- ・ 就学前教育の学びや理解を、保護者や地域に訴え広げていくことが必要と考えている。
- ・ 125人定員で定員オーバーであったが、今年は115人の定員割れである。
- ・ 地区立法人間の連携が必要だと感じている。

つま

- ・ 本年4月から園長研修を受けている。小学校とは違った経営的課題があると感じている。
- ・ 将来的には、園児は減少傾向、今年は120人定員で113人である。
- ・ 保育に特化したり、特別支援に力を入れるなど特色ある園に育てていきたい。ICTを活用するなど、小学校と円滑な接続ができるようにもしたい。
- ・ 園児の7割が津万地区で、保護者の通勤の関係で入園している園児もいる。
- ・ 将来的には、法人連携を考えたい。また、将来的なことは、こども園だけでは不可能で、市行政や市議会、市民で考えていただきたい。
- ・ 現在8人の正規職員がいるが、採用予定の方も含め将来の在り方を一緒に考えていただければありがたい。

比延

- ・ 子どもの誕生情報を市広報紙で見ていると、西脇区など半分が地域外である。
- ・ 幼保一元化で認定こども園が発足して5年が経過したが、検証が必要である。
- ・ 市内のこども園が、子どもを取り合うのではなく、将来の在り方を一緒に考えていきたい。

どれみ

- ・ 職員不足が深刻である。定員 130人であるが、園児数は 103人、職員数の関係で園児を預かることができない状況である。
- ・ 保育士の給料は19万円で、他市町のこども園に比べ新卒者に選んでもらえない現状がある。
- ・ 自分も保育士から園長になっており、職員がしんどい思いをしなくてもいいこども園を作りたい。
- ・ コロナ禍で、園児は玄関での引き渡しになっている。そんな中でも、保護者との意思疎通ができるように心がけている。

(議員)

- ・ 外国籍の子どもが増えてきている中で、これからは、多言語対応が必要と考えた。人だけでは対応できない。A I や I C T の活用も必要である。
- ・ (こども園は) 学区制がないのが特徴。(小学校も) 学区制なしでいいと思う。

(こども園)

- ・ 見える化の話がでたが、ホームページ作成費用でも60万円の予算が必要
- ・ 「芳田ふれあいフェスタ」が芳田こども園で開催されるので、ぜひ見に来てほしい。
- ・ こども園の写真フェアをみらいえのロビーで行っている。
- ・ 2歳児が3歳児になり、幼稚園の3歳児(扱い)になると、保育料がゼロになる。幼稚園部の志向が非常に多い。定員が満杯でオーバーしている。0～2歳は保育料を出している。幼稚園がなくなるならそのくらいの経費を市として出してほしい。

以 上